

# 香りの表現について

中村祥二 (会長)

## 香りの表現について

花や果物などの香り表現には頭を悩ませることが多い。

自分の経験した花や食べ物の香りを人に伝えるのはとても難しい。ここで伝えるというのは、香りの表現を読んだり聞いたりすると、香りをありありと想起できるという意味である。

味覚の場合は5種類の甘・酸・鹹・苦・うま味をそれぞれに対応する5種類の細胞で受容する。一方、香りの場合には R. アクセル博士と L. バック博士の2004年にノーベル賞を受けた嗅覚受容体の発見と、その後それに基づいて進展した研究によると、ヒトは40万種類のニオイ物質を396種類の嗅細胞で識別している。香り表現が困難なのは、ニオイと嗅細胞の種類があまりにも多く、表現が追いつかないせいでもあろう。

このためか、新聞全般、テレビやラジオ、雑誌、詩歌や文学作品では香りの表現は単純でしかも種類が少ない。NHKの香りに関する取材では、あまり多くの香りの語彙を使わないでほしいといわれる。せいぜい5、6種類である。ジンチョウゲの甘い香り、キンモクセイの強く甘い香り、レモンの爽やかな香りなどの類である。これでは多様な香りの世界を表現するには無理というか、はじめから諦めている様にすら感じられる。



キンモクセイ



(香囊)

麝香鹿

ここでは専門家ぶることはほとんど役に立たない。時として使われるヒマラヤに咲く青いケシの香り、チベットに棲む麝香鹿が発するジャコウの香り、ソマリアの神秘的なミルラの香り、マケドニアのオークモスの香りなど、知っている人はまずいない。ヒイラギナンテンの快い香りは主にテルペンアルコールのリナロールと、インドールからなっている。しかしこの化学成分の単純な構成を告げても、この花の香りは頭には浮かばない。多数の香料原料から成る香水の美辞麗句を連ねた専門表現は一般の人のためには未知な用語が多い上、複雑で難解なため、これによって香りを想起することは困難となる。

文字や言語で香りをありありと想起させるためにはモノと香り表現の基本となる言葉との結びつきを知っていると都合がよい。その言葉は平凡でよいし平凡な方が良いのだ。この結びつきの数が多いほど人は豊かな香りの言葉を発することができるし、受け手もそれを楽しむことができる。

私が試みているのは身の回りにあるモノの香りを用いて表現する方法である。受け手側は読んだり聞いたりすると、香りを想起できるというものである。

少し例を挙げてみよう。秋の七草の一つである**フジバカマ**は今では絶滅危惧種となって人の目に触れることは少ない。乾燥させると心地よい香りがする。これを嗅ぐと、桜餅に似ている。そしてフジバカマの香りを人に伝えるときに、私は桜餅そっくりですよと話すことにしている。また、桜の花の中でも最もよい香りと言われている『**駿河台句**』は満開の木の下に立つと桜餅の香りと仄かなバラの香りが降ってくる。**ストック**や**カーネーション**の花には丁字(クローブ)の香りがはっきりと感じられる。土手や荒地に咲くつる性植物の**クズ**の美しい紫紅の花は清涼飲料のファンタグレープの香りがする。このことを知っている人は意外に多い。梅雨の頃に花を咲かせる可憐な**フウラン**は夕方になるとクチナシとバニラ様の香りを強めてくる。



フウラン

複雑な香りのフランス料理の高級食材**トリュフ**はなかなか難しい。「奈良漬けのアルコールが混じったツンとする感じと、濃くなった醤油の香気が混じっていた。強く嗅ぎ込むと、奥のほうにゆで卵の黄身のおいに似たホコッとした香りがあり、鼻から遠ざけて嗅ぐと、**からすみ**のような香りも感じられた。全体に弱い煙臭さが混じっていた」。香りは総合的なものとして感じられるのだから、説明する言葉が数多くなりすぎるとかえって分かりにくくなってしまいうだろう。

一人の個人の表現に頼りすぎると偏りができる恐れが生じる。そのために複数の人のプロフィール法による評価方法で進めるのが良いだろう。プロフィール法による香りと結びついた語彙の収集である。このときに用いる言葉は一般の人が誰でも知っているような日常的な言葉が望ましい。

ここで、プロフィール法によってを行った例を二つ挙げたい。参加した人は料理の研究者と花の香りに詳しい4名である。

#### ①**コブミカン**

柑橘の葉でタイ料理のトムヤムクンに使われる。

山椒にさわやかなオレンジの果皮様の香りが加わり、それに新鮮な青臭さがある。

#### ②**ドリアン**：果物の王様

刻んだときのタマネギとリンゴの「王林」の香りがある。

分かって頂けるだろうか。

文京区の小学校で3年間、4年生を対象に「香りの授業」をおこなったことがある。子供たちが花や果物に対して見せた豊かな香り表現に驚いた。大人は香りを表現をすることを放棄してしまったのだろうか。

世の中には豊かな香りの感性を持っている大人がいる。一緒に中国茶を賞味したり、香を聞いたり、バラや蘭の花の香りを審査した時に、専門家でもないその人達が発する語彙の豊富さに驚く。子供の頃から積み重ねてきた香りの記憶と共に磨いた豊かな香り表現に深い感性を感じるのである。

香りに関心を持つ人たちと共に花やハーブ、草や木、野菜や果物の香り表現を収集整理して、それを誰でも使えるように一般に公開したいものである。